

洪水被害で患者多数診察

AMD A医療チーム
バングラデシュ
から帰国報告

バングラデシュでの洪水被害の緊急救援活動を行ったAMD A (アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)の医療チームが十日、帰国。岡山市の同本部で看護婦の児島貞子さん(四三)山口県徳山市在住)らが記者会見し、現地状況を報告した。

バングラデシュでは毎年夏ごろになると、大雨で洪水被害に見舞われるが、今

年は昨年が続いての記録的な大被害。AMD Aに入った情報によると、国内六十四州のうち五十一州が被災。一億二千万人の人口のうち、被災者は二千三百四十五万人にのぼるといふ。このため、AMD A本部はバングラデシュ政府から緊急救援の要請を受け、九月二十五日、医師と看護婦の二人を派遣。AMD Aバングラデシュとともに現地で医療活動を実施した。日本の医療チームはダッカから南東約二十五キロのガ

ザリアターナで活動。現地では、複数の町を巡回し学校の一室や屋外で診察。寄生虫による慢性栄養失調や皮膚疾患、赤痢などの伝染病患者らが一日に約二百人つめかけ、今月六日までの八日間で約千七百人の患者を診察したという。

児島看護婦は「バングラデシュでは、一万五千人に対して医師が一人という極端な医療不足の状況。薬を求めてくる患者でどこに行ってもいっぱいでした」と話した。



バングラデシュの洪水被害について報告する児島貞子さん(右)